

## 普及活動情勢報告（令和8年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

### 栗産地を育てよう ～栗剪定講習会を開催～



2月20日、高南地域栗生産協議会が剪定講習会を開催し、生産者4名が参加しました。

普及指導員が剪定の考え方や切り方を説明した後、生産者が普及指導員に質問しながら剪定を行いました。

生産者からは、「剪定に迷った際に、なぜこのように剪定するのか、普及指導員から丁寧に説明を受けることができ自信がついた」「普段、剪定に迷う場面を一つ減らすことができた」といった声が聞かれ、好評でした。

農業改良普及所は、今後も関係機関と連携して、栗の新たな産地づくりを支援します。

### 窪川地域の特別栽培米生産の発展に向けて ～育苗管理のポイントを指導～



2月24日、J A高知県四万十エコ栽培米生産部会が令和7年度総会を開催し、部会員13名、関係機関11名が出席しました。

農業改良普及所は、次作に向けて育苗管理のポイントについて情報を提供しました。

農家からは、「育苗作業を始める前に基本事項を確認することができて良かった」「次作も良い苗作りからスタートしていきたい」との声がありました。

農業改良普及所は、今後もJ Aと協力して特別栽培米の収量増加に向けて栽培技術を指導します。

### 緊急時の備えを考えてみよう！ ～女性農業者等のBCP作成を支援～



2月25日、農業担い手育成センターで女性農業者を対象にBCP作成研修会を開催し、農業者3名が参加しました。

農業改良普及所は、具体的な事例を交えながらBCPについて説明しました。その後、参加者が緊急時の対応について確認作業を行いました。

参加者からは、「BCPの具体的な内容がわかった」「緊急時の対応を考えておく必要性を感じた」との声がありました。

農業改良普及所は、今後も女性農業者のニーズに応じた研修会等を実施し、女性の活躍を後押しします。

## 安全な農業を目指してリスクを意識しよう ～米ナスGAP指導～



3月4日、四万十町十和の米ナスほ場でJ A高知県幡多地区十和支所米なす部会の生産者1戸に対して、J A職員とGAPの指導を行いました。

農業改良普及所は、GAPの概要を説明し、生産者が実践しているGAPの取組を確認しました。ほ場と作業場の状況確認を通じて、農薬の保管方法、異物混入等の収穫物が汚染されるリスクについて話し合いました。

生産者からは、「農薬の粉剤と液剤の置き方は意識していなかった」「不要な物を減らし、次作が始まる前に整理したい」といった声がありました。

農業改良普及所は、今後もJ Aと連携してよりよい農業の実践を支援します。

## 高品質ニラの生産に向けて ～ニラ営農アドバイザーに同行指導～



2月中下旬に、J A高知県四万十ニラ部会が営農アドバイザー(部会の篤農家)による巡回指導を、全生産者56戸に対してのべ7回開催しました。

農業改良普及所は、J A営農指導員とともに栽培管理についての意見交換に参加し、春先に向けたハウス管理について指導しました。

生産者からは、「生育が悪いと思っていたら急に伸びて倒れてしまった」「今年は早い段階からサイドを透かしてみる」など反省点や改善に向けた意欲的な声が聞かれました。

農業改良普及所は、引き続き関係機関と協力して高品質なニラの安定生産を支援します。

## 消費者に選ばれる直売所に ～「みどり市」で農薬安全使用を指導～



3月13日、J Aの野菜直売所である「みどり市」が春作野菜栽培講習会を2回開催し、のべ74人の生産者が参加しました。

農業改良普及所は、農薬安全使用について講師を務め、今年度実際に起こった農薬事故の事例や間違いやすい作物登録名、農薬調製時の計算方法などについて講義しました。

生産者の多くが熱心にメモを取り、「ダイコンと抜き菜は使える農薬が違う。気をつけんといかん」「いい話を聞いた。自信を持って農薬を調製できる」といった声がありました。

農業改良普及所は、今後もすぐに役立つ技術や知識をわかりやすく伝えることを念頭に、農薬安全指導を行います。